

2022年4月22日

The Emerging Markets Weekly

中国経済への懸念に CNY が大きく下落

新興国市場: 先週末 15 日、新興国通貨はイースター休暇で休場の市場が多く、方向感のない展開。アジア時間は前日の米金利上昇を受けて株式が軟調で、KRW 等が下げた。CNY は予想外の 1 年物 MLF 金利据え置きに底堅く推移した。欧米時間は薄商いのなか、RUB や TRY、東欧通貨が弱含んだ。週初 18 日、アジア時間の新興国通貨は総じて軟調。米金利の高止まりや中国の冴えない経済指標が重しとなった。休場明けの PHP のほか、MYR や KRW が下げた。欧米時間の新興国通貨はまちまち。引き続き休場が目立つ欧州時間は動意薄の展開も、米国時間に米金利が再上昇し新興国通貨は下押しされた。一方、休場明けの BRL は同+1%値を伸ばした。19 日、アジア時間の新興国通貨は上値の重い展開。朝方のブロード・セントルイス連銀総裁のタカ派発言に警戒感が煽る中、中国経済への懸念や株安が重なった。欧州時間はイースター明けで市場参加者が戻る中、米金利上昇や原油安が進んだほか、CNY が大きく値を下げた。米国時間もエバンス・シカゴ連銀総裁のタカ派発言が材料視され新興国通貨は軟調な動きを継続。ZAR は前日比▲2%超、MXN も同▲1%値を下げた。20 日、アジア時間の新興国通貨は軟調。前日の米金利上昇や原油価格の下落、IMF による世界経済見通しの下方修正が重しとなった。休場明けの MYR は 2020 年 7 月以来の安値を更新した。欧米時間の新興国通貨もまちまち。米金利反落に EUR や東欧通貨が反発、BRL は前日比+1%上昇した。片や、ZAR が値を下げたほか、CNY も続落。21 日、アジア時間の新興国通貨は新規材料に欠け小動き。およそ 6 か月ぶりの水準まで下落した CNY の動きが目立った。欧州時間はデギントス ECB 副総裁のタカ派発言に EUR が上昇、東欧通貨も連れ高した。ただ、米国時間にパウエル FRB 議長が利上げの前倒しを支持し、米金利上昇と米株安に新興国通貨は下落。計画停電を嫌気し ZAR は前日比▲2.3%下落、MXN も売られた。

アジア: 中国人民銀行(PBoC)は 15 日、預金準備率(RRR)を 4 月 25 日より 25bp 引き下げると発表した。RRR の引き下げは 2021 年 12 月以来となる。18 日発表の中国 1~3 月期主要経済指標はいずれも前年比の伸び率が鈍化。失業率は 2020 年 5 月以来の水準まで上昇する等、ゼロコロナ政策継続による景気下押しが明らかとなった。インドネシア中央銀行(BI)は 19 日、政策金利を 3.50%に据え置くと決定。2022 年の成長率見通しを下方修正する一方、インフレ率は引き続き+2.0~4.0%の目標レンジ内に落ち着くとの見解を示した。

中東欧・アフリカ: 20 日発表の南アフリカ 3 月消費物価指数(CPI)は前年比+5.9%と前月(同+5.7%)から加速も、市場予想(同+6.0%)は下回った。

ラテンアメリカ: メキシコ議会下院は 17 日、電力国有化に関する憲法改正案を否決した。改正に必要な 3 分の 2 以上の賛成を得られなかった。なお、同改正案に含まれていたリチウム資源の国有化については、鉱業法改正案として提出され、メキシコ議会上院が 19 日に賛成多数で可決した。

市場営業部

マーケット・エコノミスト

堀内 隆文

03-3242-7065

takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

堀 堯大

03-3242-7065

takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(シンガポール)

インフレ高進を意識した金融引き締めを継続

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

シンガポール金融通貨庁(MAS、中央銀行)は14日、定例の金融政策会合を開催し、金融引き締めを決定した。具体的には S\$NEER(名目実効為替レート)の政策バンドの中央値を実勢水準にまで上げるとともに政策バンドの傾斜を引き上げることとなった。昨年10月、今年1月の政策バンドの引き上げに続く金融引き締め対応に続く格好となった。また、金融政策引き締めで両方の手段が同時に用いられるのは、2010年4月以来となる。MASは通常4月と10月の年2回に金融政策を見直すこととなっている。なお、もう1つの金融政策の調整手段である S\$NEER の政策バンドの幅には変更はなかった。

今回の決定の要因は1月の臨時会合の際と同様に足許の消費者物価指数(CPI)が騰勢を強めている点であろう(図表1)。2月CPIは前年同月比で4.3%の上昇と、9年ぶりの水準を記録した。公表された声明文内でも国際商品価格と供給制約の影響によって物価上昇圧力は強まっていると言及されており、当面は電気・ガス料金や食品価格の上昇が続くとされている。こうした状況からMASは22年の物価上昇率の見通しを従来の前年比+2.5~+3.5%から同+4.5~+5.5%へとまとまった幅で上方修正した。更に景気回復に伴う労働需要の高まりから賃金上昇に伴う二次的なインフレにも警戒感を示しており(図表2)、今後の金融政策の引き締めペースを検討する上での大きな判断材料となる。

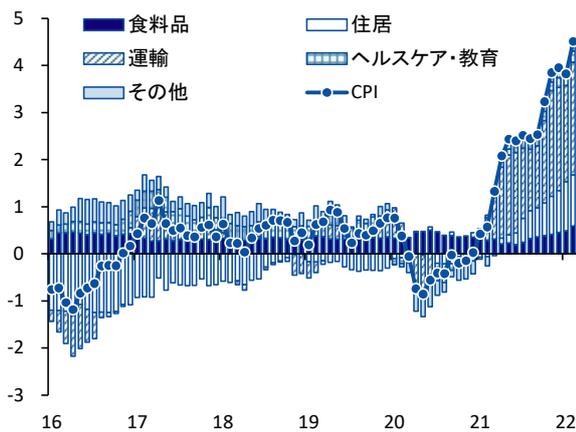
一方で、会合と同じタイミングで公表された1~3月期実質GDP成長率は前年比+3.4%と前四半期(同+6.1%)からやや減速した(図表3)。オミクロン株の感染拡大による行動制限のほか、前述の資源高と供給制約の影響で製造業、サービス業ともに伸び悩んだ。しかしながら今後については公共投資を通じて内需部門が成長ドライバーとなることや観光業の再開に伴うサービス輸出が持ち直すことに期待を示しており、今回のタイミングでGDP成長率の予想(前年比+3.0~5.0%)の修正は施されなかった。

シンガポールはASEAN域内でも景気の持ち直しと物価上昇のペースが早かったためMASの引き締めは有力視されていた。その中で、今回の決定において政策バンドの中央値を S\$NEER の実勢水準まで引き上げたことは、足許の S\$NEER が従前の政策バンド内の上位四分位付近を推移していることを考えるとややタカ派色の濃い印象を受ける。ウクライナ危機の先行き不透明感や中国景気後退懸念が周辺国に伝播する可能性が引き続き懸念されるものの、インフレ対応を優先したいMASの思惑が垣間見える内容となった。一方で22年度(22年4~6月期から23年1~3月期)の成長率予想に関しては、オミクロン株拡大、インフレ見通しの上方修正に伴って従来の前年比+7.8%から同+7.2%へ引き下げられた。景況感の悪化は一服した印象があるが、資源価格の高騰や供給制約の影響で卸売物価が高止まりする状況となっている(図表3)。将来的に消費者物価へと転嫁して消費者心理の悪化に波及する可能性が考慮されたのだろう。インフレ対応が遅れれば更なる下振れが生じることも考えられる。

最後にSGDの動向について。今回会合の結果を受けてSGDは一時1.35付近まで上昇したが、FRBのタカ派な情報発信も目立っており、米金利上昇を受けたドルの

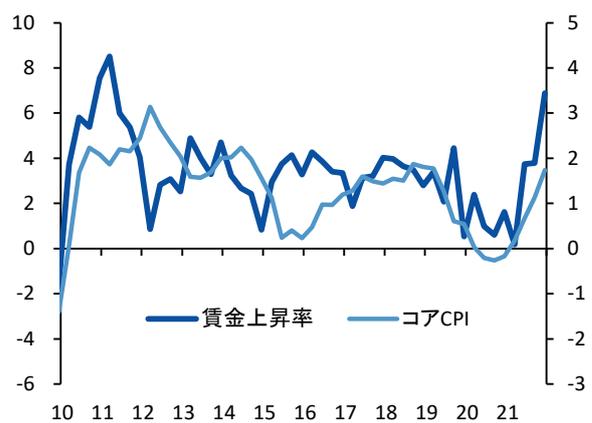
選好は強く、その後はやや反落する展開となっている(図表 4)。とは言っても、FRBによる年 8 回の短期決戦的な利上げや量的引き締め(QT)の開始を市場が織り込む動きは 5 月 FOMC 前には一服するものと考えられる。年後半以降はシンガポール経済の正常化とともに金融政策も米国に追随していく展開を想定しており、年末には対ドルで 1.32 まで緩やかに値を戻す展開を予想する。目下のリスク要因はウクライナ危機の長期化や中国経済の腰折れ懸念であり、対外情勢に左右される相場展開が続くことも引き続き考慮していきたい。

図表 1: 消費者物価指数の動向(前年比%、%ポイント)



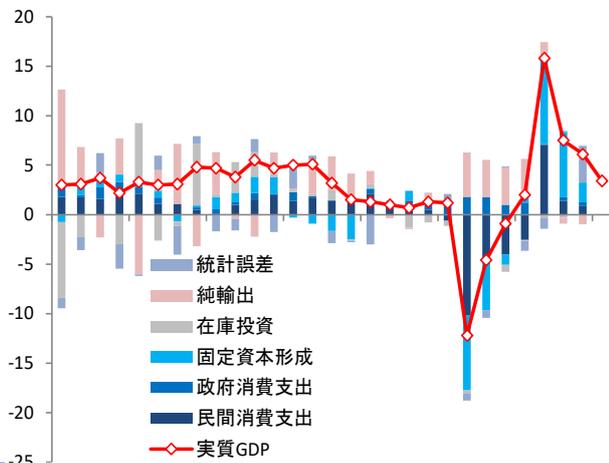
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 2: 賃金上昇率とコア CPI の動向(前年比%)



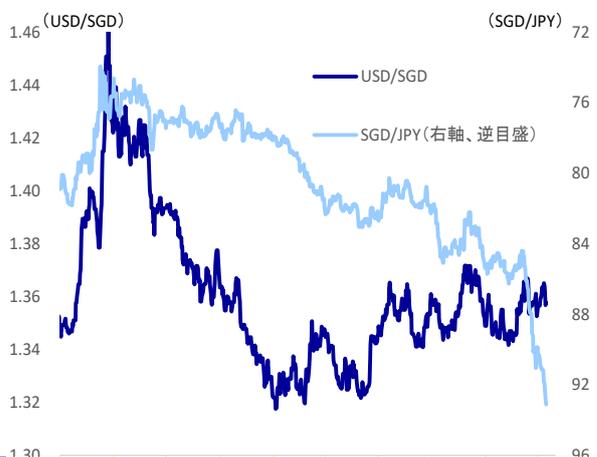
出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 3: GDP の推移(前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行 ※22年1~3月期は前年比成長率のみ

図表 4: SGD の動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(インドネシア)

4月金融政策会合～22年成長見通しを下方修正

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は18～19日に開催した金融政策会合で、政策金利の7日物リバースレポレートを14会合連続で3.50%に据え置いた(図表1)。上限金利の翌日物貸出ファンリティ金利と下限金利の翌日物預金ファンリティ金利も現状維持となった。ブルームバーグの事前予想でも現状維持の予想が優勢であった。引き続き、BIが16年に7日物リバースレポレートを主要政策金利とした以降では過去最低の金利水準となっている。

声明文では世界経済の回復ペースが減速している点に言及。新型コロナウイルスの感染拡大による影響は弱まりつつあるとしながらも、ウクライナ情勢の悪化に伴う資源価格の上昇や貿易活動の減退を考慮し、22年の経済成長予想を従来の前年比+4.4%から同+3.5%へ引き下げた。

本会合と同時期にIMFは春季世界経済見通し(WEO)を公表しており、ここでも同様のリスク認識から世界各国の経済成長が下方修正されている。ASEAN地域に関しては22年の成長率予想が同+5.8%から同+5.3%へ引下げされた。この他、インドネシアにとっての最大の貿易相手国である中国も同+4.4%と昨年10月の予想から▲1.2%ポイントのまとまった幅で下方修正されており、足許堅調に推移しているインドネシアの輸出にも影響が及ぶことも懸念される。

国内経済についても、世界経済の減速懸念と同様に下方方向のリスク圧力が強まっていることが示唆された。22年に入ってから製造業、通信業をはじめ景況感の改善が確認されており、個人消費を中心に堅調に回復していることに言及しつつも、ウクライナ危機によるインフレ高進に対する警戒感は依然強かった。こうした中BIは、22年の実質GDP成長率予想を同+4.7～5.5%としていたが、今回会合にて同+4.5～5.3%へと下方修正した。

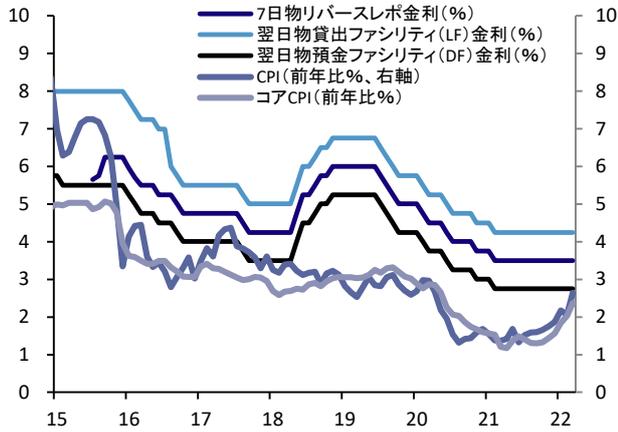
消費者物価指数(CPI)を見ると、3月は前年比+2.64%となり、BIが目標としている同+2.0～4.0%の範囲内で推移している(図表2)。食品やエネルギーを除いたコアCPIも近い水準での推移となっており、インフレが賃金上昇圧力へと結びつく二次的影響についてBIは引き続き注視していく方針を示している。通年のインフレ率もBIの目標レンジ内に留まる見解を示している。インフレ率はASEAN域内でも穏当な水準を維持していることから(図表3)、ペリーBI総裁はインフレ高進に対する政策対応を急がず、引き続き物価水準を睨みつつ経済成長支援の必要性も含めて政策検討していく旨の発言をしている。

かかる中、BIは緩和的な金融政策を維持する方針を示した。特に今回はインフレ予想がBIの目標レンジ内を維持するとの見方から、景気支援を優先する姿勢が強く見られた内容であった。一方、ハト派的な情報発信が強かったものの、会合後のIDR相場の反応は大きく値を下げる結果にはならなかった(図表4)。ウクライナ危機の長期化による景気減速はある程度織り込まれており、商品価格の高騰による輸出増加を踏まえたIDRの実需が相応に強いことが関係していると考えられる。

引き続き本欄では景気回復の経過を見ながら年後半以降に金融政策を転換していく展開を予想する。仮に想定よりも早いタイミングでの政策転換があるとするれば、FRB

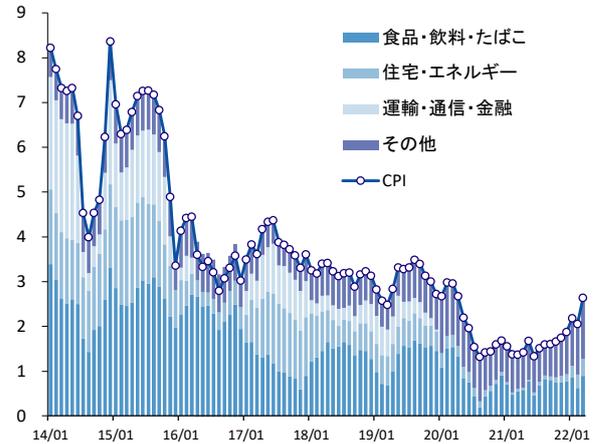
のタカ派傾斜の一層の加速に伴う金融市場のリスク心理の悪化やドルの選好の高まりによって、IDRが大きく値を下げる展開となった場合であり、これは声明文の冒頭に為替相場の安定性維持を謳う BI の方針に沿った対応だろう。裏を返せば現状、国内要因で政策変更が検討される材料は少ないと言える。

図表 1: 政策金利と消費者物価の推移



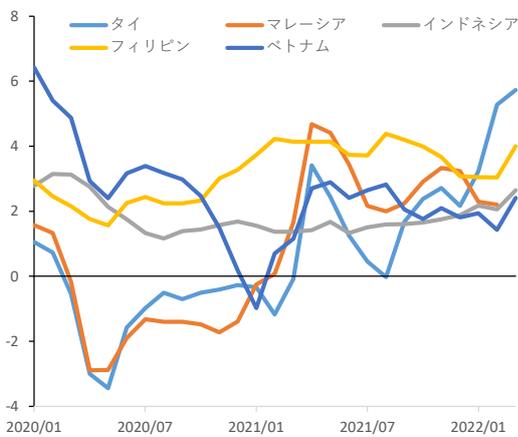
出所: インドネシア銀行、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: インドネシア中央統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 3: ASEAN-5 の CPI 動向(前年比%)



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: IDR の動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(新興国)

2022年3月のファンドフロー

市場営業部
 マーケット・エコノミスト
 堀内 隆文
 03-3242-7065
 takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
 03-3242-7065
 yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

2022年3月の新興国ファンドへの資金フローは+7.4億ドルと9か月連続で資金流入。流入額は前月(+77.6億ドル)から縮小した。株式ファンドが+157.6億ドルと9か月連続の流入も、流入額は縮小。債券ファンドからの流出額は▲150.3億ドルと、2020年3月以来の流出額となった前月からさらに増えた。

地域別ファンドへの資金フローでは、ラテンアメリカが前月に続く資金流入となった。債券の流出額は拡大も、株式への流入額拡大が補った。東欧・中東・アフリカは2か月ぶりの資金流入となった。債券の流出額がほぼ横ばいの中、株式への流入額が拡大した。一方、アジア(日本除く)は9か月振りの資金流出に転じた。株式への流入額は横ばいも、債券からの流出額が拡大した。

国別ファンドへの資金フローでは、台湾への資金流入額が4か月連続で拡大。株式への流入額が増えた。また、南アフリカは2か月ぶりの資金流入となった。株式と債券ともに流入超に転じた。このほか、インドネシアやマレーシアも資金流入に転じた。いずれも、株式が流入超に転じたことが寄与した。一方、インドは前月に続く資金流出。株式が11か月連続の流入超も、債券が2020年3月以来の大幅な流出額となった。また、中国は9か月ぶりの資金流出となった。株式への流入額が縮小、債券の流出額は拡大した。

なお、4月13日までのデータを基に4月に入ってから資金フローを試算したところ、新興国ファンドは10か月ぶりの資金流出となっている。株式が流出に、債券は流入にそれぞれ転じている。株式はインドからの大規模な資金流出が目立つが、アジア以外の地域では流入超が維持されている。また、債券はいずれの地域も3か月ぶりの流入超となっている。

(注)各国・地域別のファンドフローのグラフについては、4月19日付通貨ニュースでご確認いただけます。

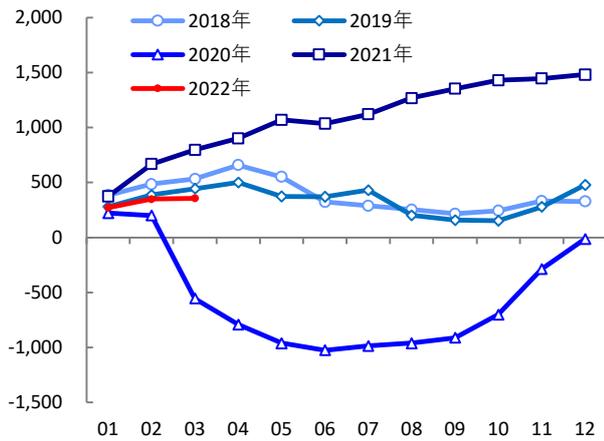
図表 1: 新興国各国・地域のファンドフロー(月次)

	3月 (%)	Zスコア (過去5年)		3月 (%)	Zスコア (過去5年)
新興国	0.02	-0.3	インドネシア	0.89	0.7
アジア(日本除く)	-0.27	-0.8	インド	-0.63	-0.8
中国	-0.26	-0.7	東欧・中東・アフリカ	0.16	0.5
韓国	-0.93	-0.4	ロシア	-0.18	0.3
台湾	5.53	0.7	トルコ	0.84	0.2
シンガポール	-0.17	-0.4	南アフリカ	0.65	0.4
フィリピン	-4.06	-0.9	ラテンアメリカ	1.20	1.0
タイ	-0.83	-0.3	メキシコ	1.32	0.2
マレーシア	4.63	1.1	ブラジル	-0.19	0.0

注: スコアは株式ファンドと債券ファンドへの資金流入額の前月比変化率で算出。

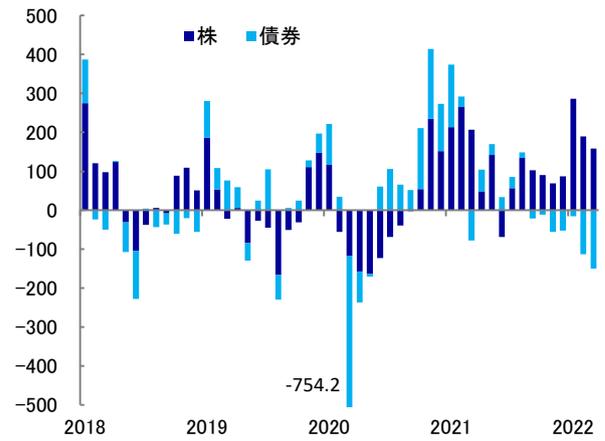
出所: EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 2:新興国(年初来累計額、億ドル)



出所: EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 3:新興国(月次、億ドル)



出所: EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 32:新興国各国・地域別ファンドフローのヒートマップ

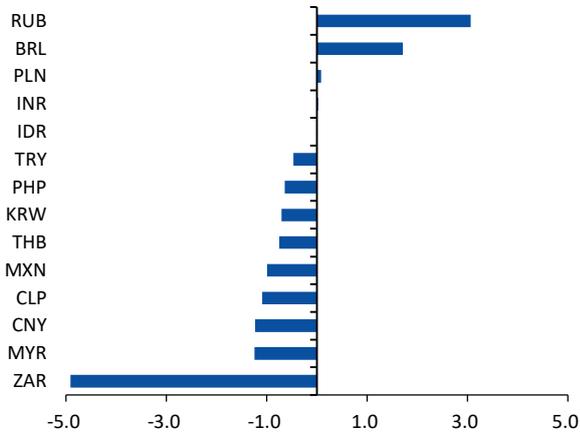
	2018												2019												2020												2021												2022												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
新興国	0.5	0.3	0.5	-0.4									0.4	0.1	0.1										0.1	-0.8												0.1	0.0	0.1	0.0									0.0	0.3	0.0	0.0								
アジア(日本除く)	0.4	0.3	0.1	-0.1	-0.2	0.2	0.1						0.2	0.4	-0.2	0.3	0.4	0.2	0.1						0.0	0.0	-0.2	0.3	0.4	1.6	1.9	0.0	0.0					0.1	0.0	0.0	0.0									0.2	0.4										
中国	0.5												0.3	0.1	0.3	0.1	0.4	0.2	0.1	0.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
韓国	0.3	0.1	0.3	-0.1	0.4	0.2	0.1	0.1					0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
台湾	0.0	0.3	0.2	0.5	0.0								0.4	0.3	0.1	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
シンガポール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0										
フィリピン	0.1	0.4	0.2	0.2	0.3	0.5	0.2	0.3	0.2				0.4	0.1	0.3	0.1	0.1	0.5	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
タイ	0.1	0.2	0.4	0.5	0.4	-0.1	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.3	0.5	0.1	0.3	0.6	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0										
マレーシア	0.4	0.1											0.4	0.0	0.0		0.1	0.2	0.1						0.0	0.5	0.4	0.2	0.4	0.1	0.2	0.4	0.2	0.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
インドネシア	0.1	0.3	0.1	0.4	0.2	0.5	0.2						0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
インド	0.1	0.4	0.0	-0.1	0.4	0.1	0.0	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.0	0.5	0.3	0.4	0.0	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0										
東欧・中東・アフリカ	0.4	0.4	0.2	0.0									0.3	0.2	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
ロシア	0.3	0.2	0.5	0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.0				0.1	0.4	0.0	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
トルコ	0.1	0.1	0.0	0.7	0.7	0.3	0.0	0.1	0.1	-0.1	-0.1	-0.1	0.0	0.0	0.0	0.1									0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
南アフリカ	0.7	0.0	0.5	0.7	0.4								0.4	0.0	0.4	1.0	0.3	0.3	0.5	0.4	0.3				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
ラテンアメリカ																																																													
メキシコ	0.0	0.0											0.3	0.1	0.2	0.1	0.5	0.1							0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									
ブラジル	0.1												0.2	0.0	0.1										0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									0.0	0.0	0.0	0.0									

注:過去5年のデータを基に算出したZスコアを用いて作成。赤は資金流出、緑は資金流入を表す。色が濃いほど平均値からの乖離が大きい。

出所: EPFR、Macrobond、みずほ銀行

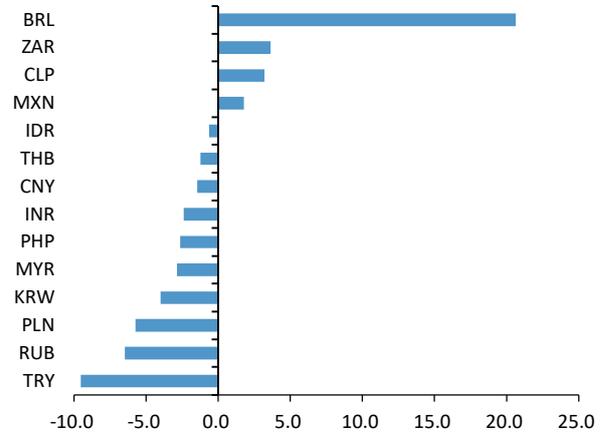
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



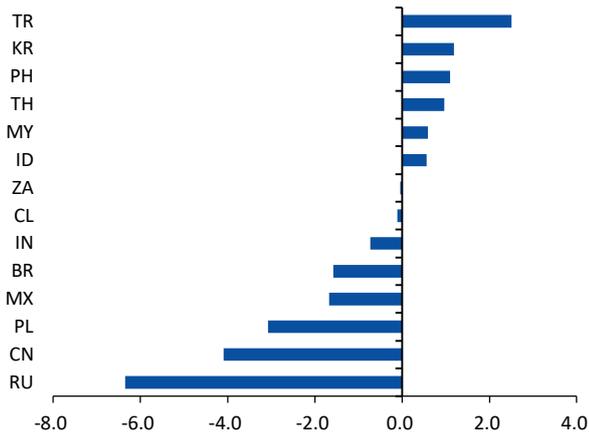
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



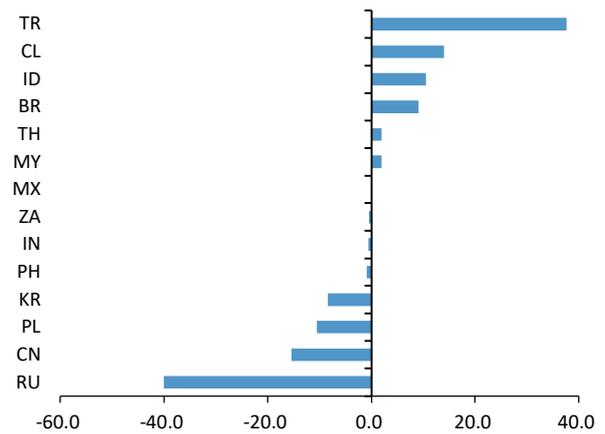
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



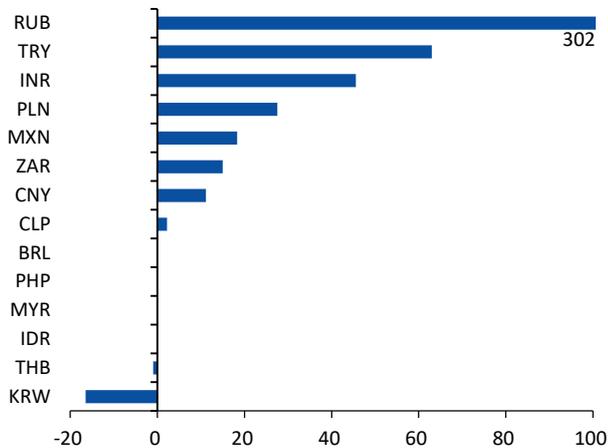
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

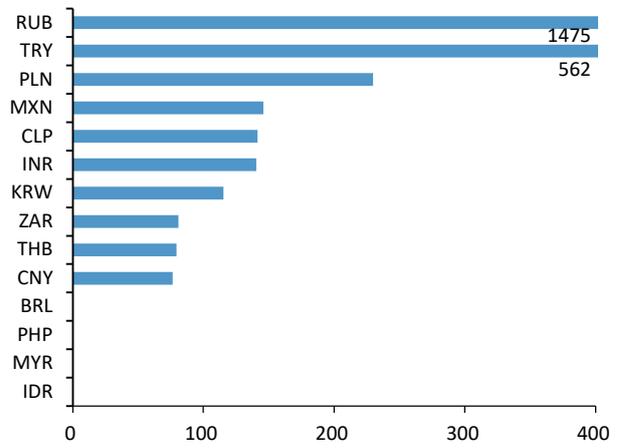
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)

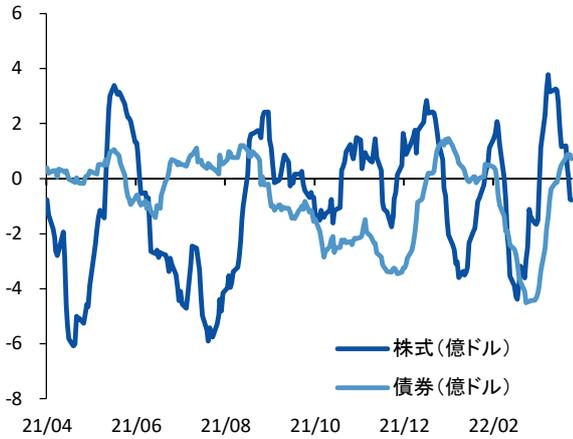


注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

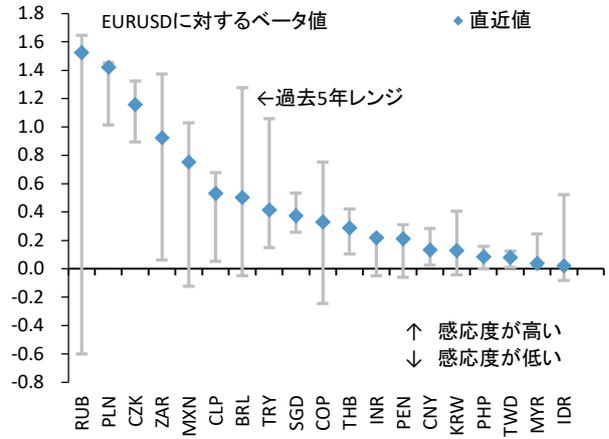
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



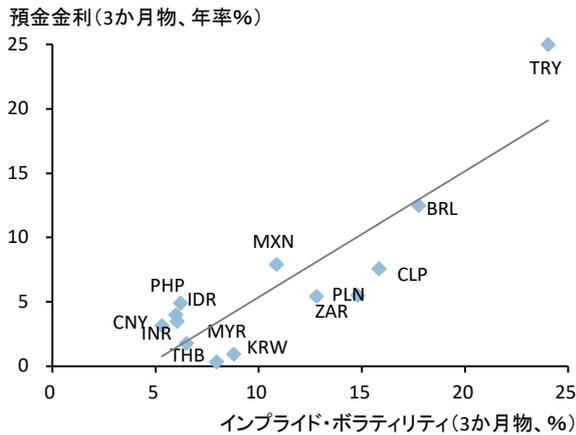
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



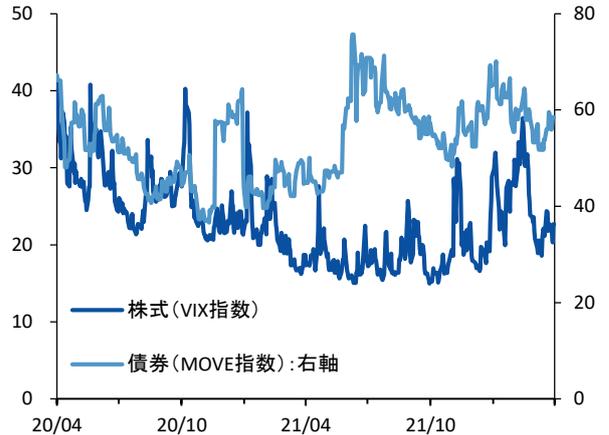
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



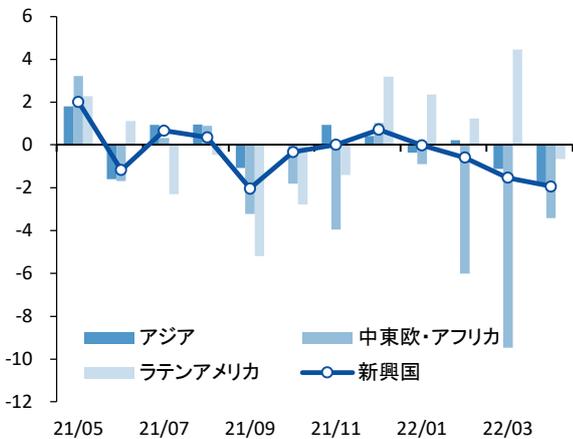
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



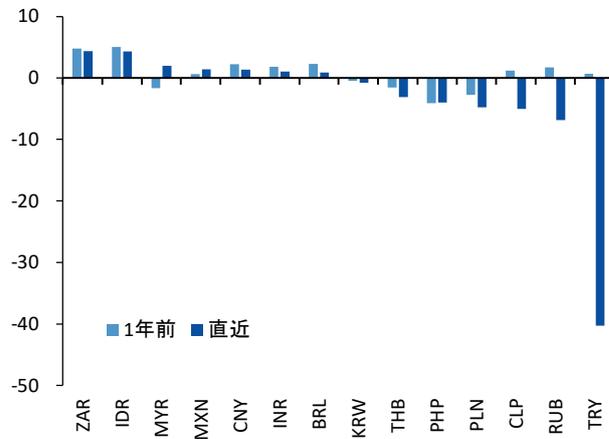
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
4月18日 (月)	シンガポール	電子機器輸出(前年比)	--	11.5%	11.6%	--
18日 (月)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	1.6%	7.7%	9.5%	9.4%
18日 (月)	中国	鉱工業生産(前年比)	4.0%	5.0%	--	--
18日 (月)	中国	小売売上高(前年比)	-3.0%	-3.5%	--	--
18日 (月)	中国	GDP(前年比)	4.2%	4.8%	4.0%	--
18日 (月)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	8.4%	9.3%	12.2%	--
18日 (月)	マレーシア	輸出(前年比)	10.4%	25.4%	16.8%	--
18日 (月)	インドネシア	貿易収支	\$3053m	\$4529m	\$3820m	--
18日 (月)	インド	卸売物価(前年比)	13.3%	14.6%	13.1%	--
18-23日	フィリピン	総合国際収支	--	\$754m	-\$157m	--
18-19日	フィリピン	海外送金	3.6%	1.3%	2.5%	--
19日 (火)	インドネシア	インドネシア銀行7日物リバースレホ ^o	3.50%	3.50%	3.50%	--
21日 (木)	韓国	PPI 前年比	--	8.8%	8.4%	--
22日 (金)	タイ	貿易収支(通関ベース)	-\$100m	--	\$123m	--
22日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	2.3%	--	2.2%	--
25日 (月)	シンガポール	CPI(前年比)	--	--	4.3%	--
26日 (火)	韓国	GDP(前年比)	--	--	4.2%	--
26日 (火)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	--	--	17.6%	--
26日 (火)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	--	-105.8b	--
27日 (水)	中国	工業企業利益(前年比)	--	--	4.2%	--
28日 (木)	韓国	景況判断(製造業)	--	--	85	--
28日 (木)	韓国	景況判断(非製造業)	--	--	82	--
28日 (木)	台湾	GDP(前年比)	--	--	4.9%	--
29日 (金)	韓国	鉱工業生産(前年比)	--	--	6.5%	--
29日 (金)	中国	Caixin中国製造業PMI	--	--	48.1	--
29日 (金)	タイ	国際収支:経常収支	--	--	-\$652m	--
29日 (金)	タイ	貿易収支	--	--	\$3391m	--
中東欧・アフリカ						
4月11-5月6日	ロシア	貿易収支	25.1b	--	21.2b	--
20日 (水)	南ア	CPI(前年比)	6.0%	5.9%	5.7%	--
20日 (水)	ロシア	PPI 前年比	28.0%	26.7%	23.5%	--
25日 (月)	トルコ	設備稼働率	--	--	77.3%	--
27日 (水)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	--	--	5.9%	--
27日 (水)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	6.3%	--
28日 (木)	南ア	PPI 前年比	--	--	10.5%	--
29日 (金)	トルコ	製造業PMI	--	--	49.4	--
29日 (金)	トルコ	貿易収支	--	--	-7.88b	--
29日 (金)	ロシア	主要金利	--	--	17.0%	--
ラテンアメリカ						
4月25-30日	ブラジル	経常収支	-\$1500m	--	-\$8146m	--
25-30日	ブラジル	純債務対GDP比	57.0%	--	56.6%	--
26日 (火)	メキシコ	小売売上高(前年比)	--	--	6.7%	--
27日 (水)	メキシコ	貿易収支	--	--	1293.0m	1293.0m
27日 (水)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	--	--	1.0%	--
28日 (木)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前年比)	--	--	14.8%	--
29日 (金)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	--	--	1.1%	--

注:2022年4月22日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2022年 3月(実績)	SPOT	2022年 6月	9月	12月	2023年 3月	6月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	6.3065 ~ 6.3861	6.4507	6.43	6.46	6.50	6.53	6.55
香港ドル (HKD)	7.7825 ~ 7.8342	7.8447	7.85	7.85	7.85	7.84	7.83
インドルピー (INR)	73.779 ~ 76.981	76.159	76.6	74.8	74.2	73.0	73.5
インドネシアルピア (IDR)	14250 ~ 14425	14344	14630	14400	14250	14100	14050
韓国ウォン (KRW)	1185.81 ~ 1244.24	1238.50	1210	1220	1220	1230	1230
マレーシアリング (MYR)	4.1645 ~ 4.2370	4.2890	4.26	4.18	4.14	4.17	4.12
フィリピンペソ (PHP)	50.753 ~ 52.486	52.368	52.8	51.6	51.0	50.6	49.3
シンガポールドル (SGD)	1.3408 ~ 1.3688	1.3648	1.34	1.34	1.32	1.33	1.32
台湾ドル (TWD)	27.496 ~ 28.861	29.201	29.0	29.3	29.5	29.8	30.0
タイバーツ (THB)	32.09 ~ 33.80	33.82	33.8	33.0	32.0	31.6	31.0
ベトナムドン (VND)	22627 ~ 22910	22964	23080	22850	22600	22650	22550
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	74.1777 ~ 177.2606	80.3585	100.0	110.0	115.0	120.0	120.0
南アフリカランド (ZAR)	14.4025 ~ 16.0902	15.3764	14.8	15.5	16.3	17.2	16.5
トルコリラ (TRY)	12.8029 ~ 14.9932	14.7070	15.0	15.4	15.8	16.0	16.0
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	4.7195 ~ 5.7239	4.6221	4.90	5.20	5.20	5.05	4.95
メキシコペソ (MXN)	19.8178 ~ 21.4676	20.1712	20.2	20.3	20.5	20.7	20.8
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	17.867 ~ 19.620	19.909	19.61	19.66	19.69	19.92	19.54
香港ドル (HKD)	14.576 ~ 15.975	16.364	16.06	16.19	16.32	16.58	16.35
インドルピー (INR)	1.491 ~ 1.641	1.683	1.64	1.70	1.73	1.78	1.74
インドネシアルピア (100IDR)	0.792 ~ 0.869	0.895	0.861	0.882	0.898	0.922	0.911
韓国ウォン (100KRW)	9.322 ~ 10.183	10.370	10.41	10.41	10.49	10.57	10.41
マレーシアリング (MYR)	27.109 ~ 29.628	29.852	29.58	30.38	30.92	31.18	31.07
フィリピンペソ (PHP)	2.202 ~ 2.384	2.444	2.39	2.46	2.51	2.57	2.60
シンガポールドル (SGD)	84.19 ~ 91.94	94.06	94.03	94.78	96.97	97.74	96.97
台湾ドル (TWD)	4.060 ~ 4.340	4.402	4.34	4.34	4.34	4.37	4.27
タイバーツ (THB)	3.416 ~ 3.695	3.788	3.73	3.85	4.00	4.11	4.13
ベトナムドン (10000VND)	0.5005 ~ 0.5461	0.5594	0.55	0.56	0.57	0.57	0.57
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	0.680 ~ 1.558	1.598	1.26	1.15	1.11	1.08	1.07
南アフリカランド (ZAR)	7.190 ~ 8.620	8.346	8.51	8.19	7.85	7.56	7.76
トルコリラ (TRY)	7.639 ~ 9.008	8.727	8.40	8.25	8.10	8.13	8.00
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	20.216 ~ 26.332	27.775	25.71	24.42	24.62	25.74	25.86
メキシコペソ (MXN)	5.377 ~ 6.248	6.364	6.24	6.26	6.24	6.28	6.15

注:1. 実績の欄は2022年3月31日まで。SPOTは4月22日の8時00分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。